

トビーの海冒険

カッターをこいで無人浜へ出航だ!

◆ 目的

- 若狭湾の自然の中で、スノーケリングや魚釣り、カッター活動などの体験活動を通して、海の楽しさや雄大さに気づき、自然環境について理解を深め、環境を保全する意識や責任感を持つとともに、生きていくために(水辺の安全管理も含め)必要な知恵や態度を育むことをねらいとする。

◆ 参加者

- 小学生 13名、中学生8名 計 21名
※3名キャンセルとなった。
(福井11名、滋賀1名、岐阜2名、富山1名、大阪1名、奈良1名、愛知4名)

◆ スタッフ

- 自然の家職員4名
 - 法人ボランティア8名(各班カウンセラーとして2名)
- 合計12名



◆ 日程

《事前説明会》

7/19(土)		
午前	午後	夜
10:00はじまりのつどい 事業趣旨説明 (参加者) アイスブレイク (保護者) 事業の詳細説明	12:10 昼食(食堂) 13:15 (参加者) カッター練習 (保護者) カッター見学、講話「体験活動について」 15:30 持ち物の説明 16:00 解散	

《本キャンプ》

8/15(金)		
午前	午後	夜
10:00 再会のつどい アイスブレイク 12:10 昼食(食堂)	13:30 カッターで出発 14:20 カタボコ浜到着 班活動(居住区づくり) 16:30 おひとりさまタイム※「活動の内容」を参照	野外炊事(夕食づくり) 班ミーティング(たき火を囲んで) 就寝(テント泊)
8/16(土)		
午前	午後	夜
起床 野外炊事(朝食づくり) 全体ミーティング(活動割り振り) 各活動 ・つり・スノーケリング・岩から飛び込み ・海水浴 など	野外炊事(昼食づくり) 全体ミーティング(活動割り振り) 各活動 ・つり・スノーケリング・岩から飛び込み ・海水浴 など 16:30 おひとりさまタイム※	野外炊事(夕食づくり) 班ミーティング(たき火を囲んで) 就寝(テント泊)
8/17(日)		
午前	午後	夜
起床 野外炊事(朝食づくり) 班活動(居住区の片付け)、浜清掃 10:45 カッターで出発 11:15 自然の家到着 道具の片付け(食器洗いなど)	シャワータイム 12:50 昼食(食堂) 班ミーティング(ふりかえり) おわりのつどい 15:00 解散	

◆ 活動の内容

- ・ 施設より約2km離れた無人浜(カタボコ浜)まで、全員でカッターを漕いで移動した。
- ・ 個々の荷物はカッターに乗せて、それ以外の活動備品などは動力船で浜まで運んだ。
- ・ 2日目の無人浜での活動は、**それぞれが「自分のやりたいこと※」**を行った。
※実際は、スノーケリング、スノーケリングしながら釣り、岩からの飛び込み、海にプカプカ浮く、生き物観察、小川作り、ハンモック作り、ブランコ作りなど、思い思いの活動を行っていた。
- ・ 「自分のやりたいこと」の活動では、その場でグルーピングし、**各グループに職員やボランティアを配置**し安全管理を行った。
- ・ 「おひとりさまタイム」を毎日16:30目途に行った。この時間は、「ひとりで」「しゃべらず」「動かず」に、今日のこと、自分のこと、仲間のこと、家族のこと、将来のこと、目の前のこと、など**自然の中で20分間思いにふける時間**とした。



◆ 成果

事業目的①海の楽しさや雄大さに気づく

〈参加者の声〉

「つりや海活動がいっぱいできたので楽しかった。みんなで協力できたのがよかった。」

「釣れなかったけど楽しかった。初めての経験だったけど楽しかった。」

「海の音で目覚めるのが良かった」

「中学最後の海がこんなに楽しいと思わなかった。この仲間たちと会えたことに感謝。2泊3日ありがとうございました。」

「みんなと協力、仲良くなれた、話せた!」

「こういうキャンプで出会ったひととまたキャンプがしたい」

〈ボランティアの聞き取りエピソード〉

・ 「魚がなかなか釣れないのが面白い」と言っていた。**うまくいかないこと、逆境を楽しむ姿が素敵**だった。

〈アンケート調査〉

事業後に「自分のやりたいこと」がどれだけできたかをアンケート調査を行った。その結果は以下のとおりである。

かなりできた … 11件

すこしできた … 10件

あまりできなかった… 0件

全然できなかった … 0件



〈考察〉

上記のとおり、主体的に自然と関われるようあえてプログラムは設定せず、「自分のやりたいこと」に熱中したことで、うまくいかないこともあったようだが、海の楽しさや雄大さを十分感じたようだ。

事業目的②自然環境について理解を深め、環境を保全する意識や責任感を持つ

〈ボランティアの聞き取りエピソード〉

・ 最後の振り返りで大変だったことについて聞いた時、砂が大変だったと答えていた。寝る時にテントに入っていたり、足について嫌な気分になったようだが、海の中での砂はとても気持ちよく感じたみたいで、**砂も陸と海の中では感じる感じが違う**ということに気づいていた。

・ 流れ星を初めて見たという声もあり、現代社会ではなかなか感じられない夜空の美しさを感じていた。



〈アンケート調査〉

「動物を好きな気持ち」などの環境保全意識や「自然豊かな環境には親近感を感じる」などの「自然とのつながり」に関すること（総じて「環境保全意識」としている）を事業参加者の21名に対して事業実施前後でアンケート調査を行い、回答に欠損があった1名を除き20名の各得点をt検定を用いて調査した。分析には統計解析ソフトのHAD 18.0（清水，2016）を用いた。

調査の結果、事業実施前後を比較すると、以下の表1、2のとおりとなった。いずれも、統計的に意味のある得点の減少ではない。



表1 「環境保全意識」得点

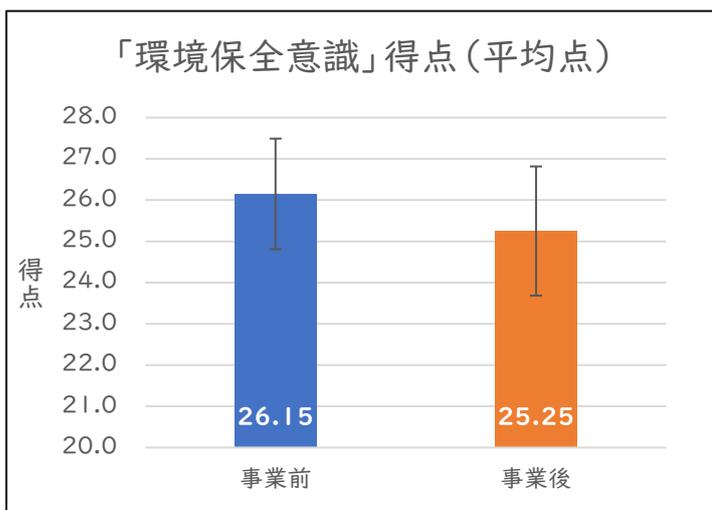
(人数=20)

「環境保全意識」得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
事業前	26.15	-0.90	1.10	0.29	0.14
事業後	25.25				

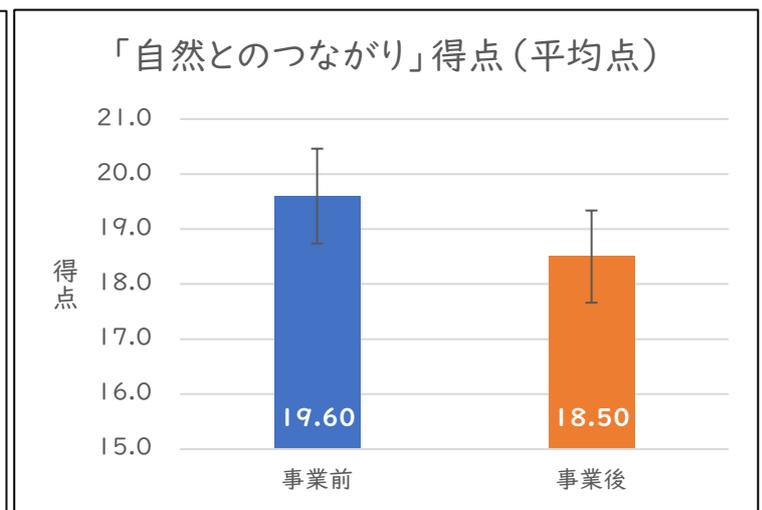
表2 「自然とのつながり」得点

(人数=20)

「自然とのつながり」得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
事業前	19.60	-1.10	2.05	0.05	0.29
事業後	18.50				



グラフ1



グラフ2

〈考察〉

前述のボランティアの見立てのとおり、スノーケリングやつり、岩からジャンプなどの海活動では、若狭湾の大自然に包まれ自分のやりたいことに挑戦するなど、思い思いに活動し、その中で**知り得た生き物の知識や、自然に対する新しい感覚、発見**があったようだ。〈おひとりさまタイム〉では、**自然の中に一人**でいることで、「自然の雄大さ」や「自然の価値」などを感じることを期待した。また、カタボコ浜を去る際には、浜清掃を行い、環境保全意識の醸成を期待した。しかしながら、アンケート調査では、いずれの得点も減少がみられ、期待した効果は得られなかった。理由として①事業中に具体的な環境学習の場や知識を学ぶ場を設けていなかったこと②約2日間どっぴりと自然の中で過ごし遊んだことで、「海（自然）」が**空気のように身近な存在**となり、特別な思い（守るや綺麗にする思いなど）がなくなったこと③調査項目が「海」とかけ離れた項目だったこと、の3点が考えられる。

事業目的③生きていくために（水辺の安全管理も含め）必要な知恵や態度を養う。

〈参加者の声〉

「（毎食の野外炊事は）おいしく作れたのでよかった。」

「魚をさばくのが楽しかった。」

〈ボランティアの聞き取りエピソード〉

- ・日常で卵を使ったお菓子作りをしており、卵が食材として出てきた際、自ら調理をしたいと言ってくれた。**日常と非日常をリンクさせ、自分の得意分野を活かす姿**が素敵だった。
- ・最初は人見知りでなかなか話す声が小さかったが、活動を通して話す声が大きくなったり感情を表現できるようになった。二日目の夜の「いただきます」の声掛けをお願いしたところ、誰かと一緒ならやる、と自分の意見を言えるようになった。
- ・最後の振り返りで「生きる力」について聞いた時、「その人が生きていて過ごすこと」と言っていた。たしかに生きる力というのはその人が生きていて思わないとその力は無いと思った。大学生の私でも思いつかない深い言葉で素敵だなと思った。**海活動など自分で何かすることを決めることに影響された**とののではないかと考える。
- ・洗い物は面倒くさいが、面倒くさいと思うから面倒くさいのであって、楽しいと思えば楽しめると思ったそうだ。



〈アンケート調査〉

以下の2つの項目について事業参加者の21名に対して事業実施前後でアンケート調査を行い、回答に欠損があった1名を除き20名の各得点をt検定を用いて調査した。分析には統計解析ソフトのHAD 18.0(清水, 2016)を用いた。



調査の結果、事業実施前後を比較すると、以下の表3、4のとおりとなった。いずれも、統計的に意味のある得点の向上ではない。

- ① 「いつも新しいことに挑戦している」や「人任せにせず何でも自分でやっている」などの「意欲」に関すること。
- ② 「何事も前向きに取り組むことができる」や「どんなに難しいことでも、努力をすれば自分の力でやり遂げられる」などの「へこたれない力」に関すること。

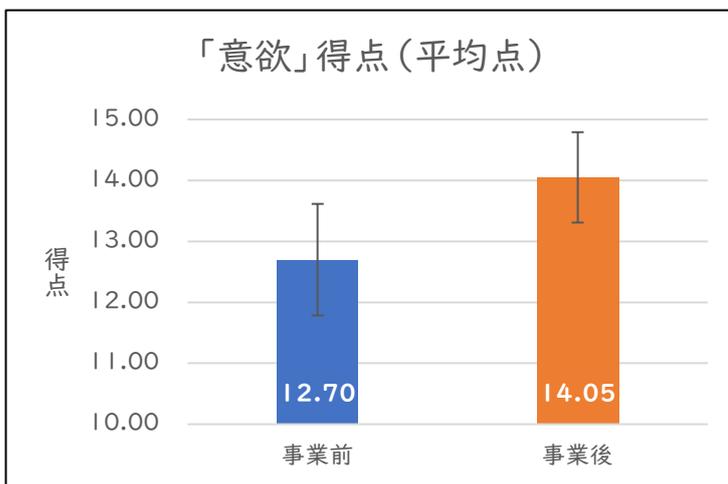
※上記の項目は、国立青少年教育振興機構青少年教育研究センターが平成29年に実施した「子供の頃の体験がはぐくむ力とその成果に関する調査研究」を参考にしてしている。

表3 「意欲」得点

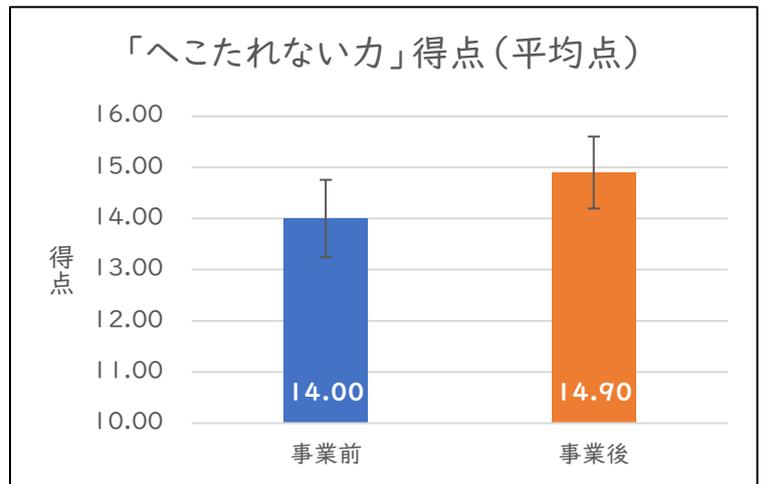
(人数=20)					
「意欲」得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
事業前	12.70	1.35	-1.81	0.09	-0.36
事業後	14.05				

表4 「へこたれない力」得点

(人数=20)					
「へこたれない力」得点	平均値	前後の差	t値	p値	効果量
事業前	14.00	0.90	-1.67	0.11	-0.28
事業後	14.90				



グラフ3



グラフ4

〈考察〉

〈参加者の声〉やボランティアの見立てのとおり、海活動や野外炊事などで何度も挑戦する姿、失敗も含め挑戦することへの楽しさを感じる姿、班の仲間へ勇気をもって話しかける姿など、生活や活動の中で出てくる様々な問題に対して、どうやったら解決できるかを自ら考えるだけでなく、仲間に相談したり、それぞれが持つ知恵を率先して教え合う（交換しあう）姿がみられた。そのような姿がみられたのも、各班のボランティアが班の目標を設定したり、適宜声をかけたり、班員に寄り添ったりするなど、生きていくために必要なよりよい人間関係を構築するための態度を育むことにつながったと考える。

◆ 事業運営のツボ・工夫・反省・課題

【ツボ・工夫】

〈カッター活動〉

カッターでの移動が、**日常と非日常（浜での生活）を切り分けるきっかけ**となったと感じる。また、カッター活動が非日常（浜での生活）でも必要となる「**協力**」という意識を醸成するプログラムとなったと考える。

〈個々の浜活動と協働する衣食住〉

自分のやりたいことを楽しむ「**個人活動**」を中心にしたことで、家から魚を捕るしかけを持ってきたり、釣り竿を持ってきたり、**事業への参加のモチベーション**も高められたと考える。すべての参加者が概ねやりたいことをして楽しんだことが〈参加者の声〉でわかる。また、テントや野外炊事場などの生活スペースを作ることや、4回の野外炊事では、班の仲間と協力して行う姿がみられた。**個々の活動と協働の活動を織り交ぜたプログラムの構成**はそれぞれの活動で満足度の高い活動となったことが伺える。

〈おひとりさまタイム〉

2ページ上段のとおり実施し、**リフレッシュの機会、〈個々と協働〉の切り替えの機会、自分と向き合う機会**として参加者やボランティアから概ね良い反応があった。

〈ボランティアのキャンプカウンセラーとしての役割〉

事業中、事業後にボランティアから参加者の様子を細かく聞くと、浜での活動や野外炊事、班のふりかえりなどの参加者の見立てがとてもよくできており、**キャンプカウンセラーとして参加者に寄り添った**ことが伺える。事業前の研修時、事業前日に要点を伝え、当日は職員からの指示は最低限としたことで、各班のボランティアがファシリテートする場面や班の相談する時間が多くあった。特に、**野外炊事では、あえてメニューは伝えず、各班で自由に調理して良いこと**としたため、班の話し合いがより活発となったことが伺えた。

〈事前説明会とボランティアの事前研修〉

事業1か月前に参加者とその保護者を集めた**事前説明会**を行ったことで、事業のイメージを持つことができ、準備物や服装も当日困ることがほとんどなかった。また、アイスブレイクなども行っておいたため、当日はスムーズに班活動が行えたように感じる。ボランティアにとっても、**参加者との距離感や班の雰囲気**を予めつかむことができていたようだ。さらに、無人浜での野外炊事、海活動、テント立てなどを**事前に研修**したことで、当日はボランティアの指導のもと、職員が介入することなくスムーズに活動することができた。



【反省・課題】

〈広報〉

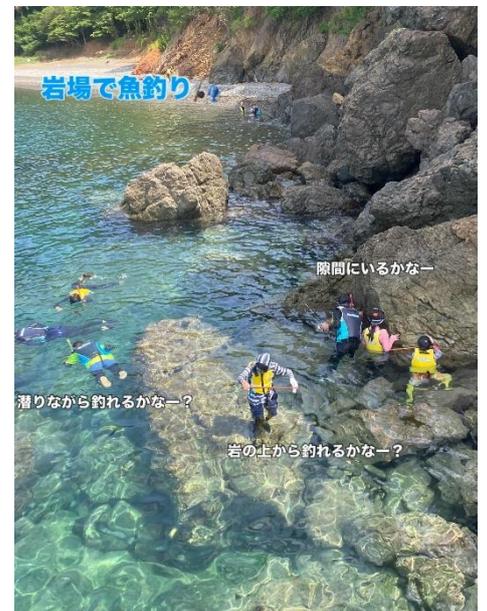
今回、募集案内を広報するタイミングが締め切り1か月前の状態だったため、あまり応募数を集めることができなかった。

〈野外炊事〉

一定の食材を各班に配給し、野外炊事のメニューを各班で相談して決めて良い仕組みで行ったことで、**自主性や独自性のメリット**もあったが、使用しない食材があり、**食品ロス**が多かった。今後は分量をさらに減らすことや、見通しをもった調理ができるよう工夫する必要がある。

〈活動の充実と日数〉

当日の事業は2泊3日で行ったが、無人浜での生活のうち、1日目午後、3日目午前準備・撤収のため、海活動は丸1日となった。また、各食事は野外炊事のため、海で活動する時間はさらに短くなった。それでも参加者はやりたいことはできたと話しているが、より活動の発展性などを鑑みると1日増やすことを検討する必要がある。



当施設 Instagram
にて、当日の様子が
わかります!ぜひご観
ください。



@WAKASAWAN_SIZENNOIE

〈本事業担当〉
国立若狭湾青少年自然の家
池田、小林、井石、鈴木
電話：0770-54-3100
メールアドレス：wakasawan@niye.go.jp